

(様式2) 平成26年度東京都・荒川区 学力調査に関する結果分析シート

学校名

赤土小学校

学力調査名	調査前に記入		実施結果	
	成果指標(具体的な数値指標)		区 達成率	自校達成率
区学力調査 全学年	今回の結果を受け、まず下位の学力を引き上げ区の平均正答率を3ポイント超えることを目指す。		<正答率> 国語 算 数	<正答率> 国語 算数
			1年 76.9 85.6 2年 86.9 87.4 3年 76.1 76.8 4年 70.6 76.1	1年 67.0 80.6 -9.9 -5.0 2年 83.6 84.3 -3.3 -3.1 3年 67.3 69.3 -8.8 -7.5 4年 61.1 69.1 -9.5 -7.0 5年 61.8 61.8 -7.5 -7.3 6年 63.1 70.2 -3.1 -0.5
都学力調査 中学校2年 小学校5年	成果指標(具体的な数値指標)		都 正答率	自校正答率
	A 7月実施	学年の実態からまず、都の平均を目指す。どの教科も基本的な学習事項がどの程度定着しているかをしっかり見て、後半と6学年からの課題を明確にしたい。	国語 77.8 社会 75.6 算数 65.0 理科 67.9	国語 73.3 -4.5 社会 68.7 -6.9 算数 58.7 -6.3 理科 62.7 -5.2
	B 7月実施	習得の問題と同様、区の平均値を目指す。読書活動に力を入れてきた経緯があり、国語については平均を超えたいと考えている。	国語 52.6 社会 53.7 算数 50.3 理科 57.4	国語 46.9 -5.7 社会 50.2 -3.5 算数 46.5 -3.8 理科 60.1 +2.7

平成26年度結果分析および具体的な方策

結果の分析
 〈区学力調査〉
 ○正答率を見ると、昨年度の結果は上回っているが、どの学年も区の平均正答率を0.5～9.9ポイント下回っている。特に1年の国語、3、4、5学年の国語、算数は低い結果となっている。学力向上のためには、学区力低位の児童への個別指導や特別支援教育を必要とする児童への対応、生活指導上の課題がある。
 ○6学年では、国語と算数で比べると国語に課題がある。
 ○3学年から6学年の算数習熟度別指導の取組に一層力を入れていく。
 〈都学力調査〉
 ○特に問題Aの社会、算数のが区の平均を大きく下回っている。授業改善、問題文の捉え方等丁寧に指導を行う。
 ○問題Bの国語のポイントが低い。読みの力をつけられる指導の工夫に理科らを入れる。

具体的な方策
 ○授業規律の確立と徹底を図る。
 ○補充学習の時間確保と家庭学習の習慣化
 ・諸会議を工夫し、放課後の補習時間を短時間でも確保し、継続して指導を行っていく。
 ・家庭学習の習慣化を図るために、課題を計画的に与える。
 ・「家庭学習がんばろう週間」の充実を図る。
 ○校内研究の充実
 ・学ぶ意欲の向上を図る楽しい授業づくりを図る。
 ・問題の意図を読み取る力が付くよう、読書活動、調べ学習に力を入れて指導していく。
 ○算数習熟度別学習及び「算数大好き」によるTT指導
 ・プレテストによる適切なグループ編成を行い、段階に応じた指導を徹底する。
 (低学年のうちから低位の引き上げを行う。)
 ・無回答0を目指す。
 ○電子黒板やスマートボード、タブレットパソコンの活用(コンテンツ、ソフトの活用)
 ・研修会を行い情報交換と活用の仕方を学び合う。
 ・授業でいきる、活用できるコンテンツの紹介と研修。
 ○金曜日の放課後に補充学習を行う「あらかわ寺子屋」の時間を設け、基礎学力の定着を図る。
 ○教育活動全体において言語活動を重視し、言葉を通して的確に理解し、論理的に考え、表現する能力を育てるとともに、学校図書館を活用した授業と読書活動を推進する。
 ○朝遊びの時間を設けて、「早寝、早起き、朝ごはん」を奨励し、基本的な生活習慣を安定させ、学力向上の基盤をつくる。

※「行の高さ」は変更していただいて構いません。